

ADRA 季刊誌 2025.9 Vol.145

ひかり

手を取り合って、40年。
これまでも、これからも。



ヤマハ製浄水装置を設置したダケラ村の住民に
関心取りをする、ネパール事業担当の渡辺

希望とちからを手から手へ



Justice,
Compassion,
Love

“子どもの下痢がなくな った!” ネパールの村に届いた 安心の水



「前まで使っていた手押しポンプの水はすっぱくて、鉄やサビのにおいがしたけど、
この浄水された水はおいしいし、毎日飲んでいるよ!」
今年2月、2024年に水環境を整備したダケラ村で話を聞くと、多くの人がこのように答えます。



小さな子どもに安心して飲ませることができる水だと好評



連児童基金(ユニセフ)の報告によると、ネパールでは全水源の71%、最貧困層が使用する水源の91%が汚染されています。同国西部のバルディア郡ダケラ村も例外ではなく、住民が利用する川や井戸の水の多くが、大腸菌などに汚染されているからです。不衛生な水は下痢などの病気を引き起こし、特に抵抗力の弱い子どもたちの死因となります。しかし、村人には他の選択肢が無いため、これらの水を飲まざるを得ませんでした。

ADRA Japanは2年前より「栄養状態と水衛生環境の向上を通じた健康改善事業」をバルディア郡にて実施しています。その一環として、汚染された水を、安心して飲める水にする設備を整備してきました。

ヤマハ発動機株式会社と手を組み、ダケラ村に浄水装置「ヤマハクリーンウォーターシステム(YCW)」を設置してから1年ほどたって、生活にどのような変化があったのか住民の方にお話を伺うと、「子どもや家族が下痢、嘔吐などの病気にかかりにくくなった」「病院に通院する回数も少なくなった」という、嬉しい声を聞くことができました。

「この地域の人が浄水装置の水を飲み始めてから、処方薬を出すケースが減ったのを感じます」「下痢症や呼吸器系疾患が、以前は月に4、5件あったのに、最近は0件になったんです」と、村で活動する医療従事者も話し、住民が「健康的な生活を送ることができている」とわかりました。

ADRAでは、住民の健康が一時的に改善されるのではなく、地域に根付き長く続くことを目指しています。そのため、村において水衛生委員会を形成し、浄水装置の適切な維持管理を研修にて伝えてきました。また村の人たちの衛生意識向上のために、自治体職員や医療従事者が中心となって、水衛生・栄養の大切さを唱えながら行進する保健キャンペーンや、パンフレット配布・ポスター掲示などを使用した栄養と衛生の啓発活動も実施しています。

今後も、地域住民が自らの力で健康的な生活を送ることができるよう、住民の声に耳を傾けながら寄り添った支援を続けてまいります。引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※この事業は皆さまのご寄付と、日本NGO連携助成金協力からの助成によって実施しています。

ネパールでの活動を
応援してください!
ご寄付はこちらから

<https://x.gd/CHfvb>



アンジャン・デュンガナ(25歳)は9年生から12年生までナマステ基金の支援を受ける



医師になるという夢が叶うまであと一歩！ 日本からの支援が支え続けた未来

「ナマステ！(こんにちは) アンジャン・デュンガナです！私の父はもともと安定した職に就いていました。しかし、4年生のときに退職してからは、坂を転がり落ちていくように家計が苦しくなります。農業のわずかな収入で家族5人が暮らし、学校はなんとか続けている状態でした。そんな時、ADRAのナマステ基金のサポートを兄が受け始め、兄の卒業を機に、私も9年生から奨学生に選ばれました。真新しい制服や靴、ノートを受け取り、来年も学校に行けるとわかったときには、もっと頑張ってたくさん勉強しようと思いました。そして12年生(日本の高校3年生にあたる)まで「ナマステ基金」の支援を受け、高校過程を卒業することができたのです。

卒業後は、家族や親せきからエンジニアになるよう勧められましたが、私には医者になるという夢がありました。しかし高額な学費をどう工面したらいいのかわからず、1年間ただ悩んで何もできませんでした。その後いろいろ調べた結果、国の奨学金制度があることを知りました。

それからの私は1日8から9時間猛勉強の日々。努力が実り授業料の多くが免除される奨学生として医科大学に入学できたのです。今は母と兄が、残りの学費を助けてくれてい

ます。

医師国家試験まであと半年。必ず合格して医師になり、家族のために家建て、自分の病院を持ち、ネパールの社会に貢献したいです。「ナマステ基金」を通じて支援をしてくださった皆さまは、私に大きな幸運をもたらしてくれました。本当にありがとうございました。これからもうこの「ナマステ基金」を継続していただき、ネパールの子どもたちに機会を与えてくださればうれしいです」

ネパールでは、今も多くの子どもたちが経済的な理由や伝統的な社会的慣習により、学校に通い続けることが困難な状況に置かれています。しかし、一時的なサポートさえあれば、アンジャンさんのように、未来への希望をつなぐことができます。

ADRA Japanは、ひとりでも多くの子どもたちが負の連鎖から抜け出し、自立した未来を築けるように、子どもたちの教育を支援するスポンサーシップ制度「ナマステ基金」でサポートしています。



選ばれた9年生の頃の写真と、11年生の頃に支援者へ向けて書かれたクリスマスカード



ナマステ基金サポーターを11月までにあと5名募集中！

月々3,000円または年額36,000円のご支援で、子ども1人の1年間の学びを支えることができます。あなたのもとには、年に2回の活動レポートとクリスマスカードが届きます。ネパールの子どもたちを、まずは1年間、応援していただませんか？

「アドラ ナマステ基金」で検索、またはQRから詳細をご覧ください。➡



The SCENE

ADRAスタッフが見た情景

ADRAの支援の現場には、
さまざまな「SCENE(シーン)」があります。
笑顔が生まれる瞬間、悩みながら進む日々、
スタッフの心に響いた出来事…。
そんなリアルなひとコマを、このコーナーでお届けします。

29年も女性地域保健
ボランティアとして活動
してきたサラスワティ氏

母乳を吸う子を失った日

—ヤギの子どもに人間の母乳を与えるしかないのか—

西ネパールにあるバルディヤ郡では、ネパール暦カレンダーで毎月5日、母子保健に関するオリエンテーションがある。そこで会った水色のサリーを来た女性地域保健ボランティアのサラスワティ(Saraswati)氏はこう語った。

「私は15歳で結婚し、21歳で最初の子どもを授けました。当時は病院や診療所はほとんどなく、私自身もお産に対する知識は何もなかったです。自宅分娩が普通で、近所の女性が手伝ってくれて…。朝、子どもを取り上げ、夕方にはその子は息を引き取りました。副鼻腔炎が原因だったと記憶しています。外もとても寒かったので、長

く生きることはできなかったのだと思います」

「医者も助産師もおらず、子宮の中の胎盤は翌日になって看護師を呼んでようやく取り出されました。一方、出産した身体は乳房が張り、痛くてどうしようもなかったです。母乳を吸ってくれる子どもも、もういない。器械もない。対処法がわかりませんでした。そこで、近くにいたヤギの赤ちゃんや犬の赤ちゃんに初乳を与えようとしたのですが、上手く行きませんでした。3日後、やっと自然に母乳が出てきたのですが、本当に痛かったのを覚えています。もし正しい方法を知っていれば、辛い思いはしなかったでしょう。知識はとても大切な

す。だから、今私は女性地域保健ボランティアの仕事をしているのです。誰かに呼ばれたらいつだってかけつける気持ちでいます。私のようにってほしくないから…」

経験から生まれた強い意志を感じる。さらに、このオリエンテーションに毎月参加している女性に話を聞いた。

「私には、娘と息子がいます。このオリエンテーションでは、毎回新しい知識を知ることができます。近所の友人や女性がいれば、声を掛け合って一緒に来るのです。私たちにとって大切な場所です。」

母親グループのリーダーであるサラスワティ氏の気持ちが、彼女にしっかり

と伝わっている。

ネパールの母子保健分野はまだ未熟で、整備されていない施設も多い。特に地方では、今回聞いたような話は驚くようなことではない。それでも、過去から学び、未来を少しでも良いものにしようと強い思いを持って働いている女性がいる。

私たちは、彼らが本来持つ大きな希望とちからをどうしたら繋いでいけるのかを考えている。例えばADRAがこの地を離れたとしても、自走していきける基盤づくりをお手伝いするのが、我々の役目であると胸に留めながら現地で活動をしている。

(文責:ネパール事業担当 渡辺 陽菜)

アドラの
チカラ

ADRA Japanを支えてくださる方を
ご紹介します!



丸山敦子さん 主婦
(これまでの支援回数: 192回)

— ADRA Japanをお知りになったきっかけ

私が通っている教会で知りました。

— ADRA Japanとの関わりについて

教会で当時のADRA Japan支部長が、毎月寄付できるADRAフレンドを紹介しており、なにかイエス・キリストのためにできることがないかなと思っていました。だったので、ADRAフレンドになりました。毎月1,000円は大きな負担にならなかった、長いこと続けることができています。

— ADRA Japanの魅力や関わってよかったこと

ADRAは受益者の方々に、ただあげるだけの支援をするのではなく、技術を伝え、自立できるように活動をしているのがすごいと感じていました。また、年次報告書を見て、どのような活動に寄付が使われているのかがわかるので安心します。

— まだADRAのことをご存じない方へのメッセージ

100円の少額であっても、信頼がないと不安になって募金はできません。信頼できるところに寄付をしましょう。災害が立て続けに起きる現代、真っ先にADRAがいち早く動いています。それを知ってもらいたいです。何かやりたい気持ちはあるけど、何をしたらいいかわからない方は、まず信頼できるところに募金しましょう。多くの団体が募金活動をしているので、ADRA Japanは信頼できるところです。

— ADRA Japan へのメッセージ

ADRA Japanのことを、教会でも「なんとなく」でしか知らない人が多いです。教会員でなくても、誰かのために役立ちたいと思う人が教会に来ていることが多いので、もっとADRA Japanの支援活動を伝えてください!



母親たちへ母子保健の指導をする
サラスワティ氏

ADRAのWebページのご案内

「ヤギの子どもに人間の母乳を与えるしかないのか」の記事全文は、こちらのQRを読み取ることで、お読みいただけます。ADRAのWebページでは、この他にもスタッフによる個性豊かな記事を多く載せています。「アドラ」で検索し、ADRAのWebページへぜひお越しください。





使い切れなかった外国コインや紙幣を送ってください!

海外旅行や出張の際、ついつい余ってしまう現地のコインや紙幣。
どうしたらいいかわからないまま、皆さんの机の引き出しや箱の中に
眠っていませんか?

処分が困っていませんか、ADRA Japanに送ってください!

- ✔ 紙幣コインともに国名・発行年代など一切問いません。
- ✔ 銀行で両替できなかった紙幣や古紙幣もご寄付いただけます。

少額であっても、皆さまから届く一つひとつが集まり、大きな力となります。
貧困や災害、紛争などの影響を受けた人々に寄り添い、
自立を支える支援につながります。

ご自宅に眠っている外国のコイン・紙幣・切手を、ぜひADRAにお送りください。
あなたの小さな一歩が、世界の誰かに希望を届けます。

ご寄付 の方法

送付先や受付内容の詳細については、
「アドラ 外国コイン」と検索していただ
くか、QRからご確認ください。

アドラ 外国コイン 検索



⇒ 応援メッセージ ご寄付いただいた方より、メッセージを頂戴しましたので、ご紹介いたします! ⇐

昨年になりますが、能登地震のチャリ
ティーの為に作ったTシャツの売り上
げの一部になります。150名ほどの思
いがあります。活動の足しにしたいだけ
と幸いです。
(能登半島地震被災者支援 K.Hさん)

政権が不安定な国で支援活動はご苦
勞が多いと思いますが公平な支援を
よろしくお願ひいたします。応援して
います!
(ミャンマー避難民支援 NKさん)

安心出来る団体に世界の人々への支援
に利用して頂きたいのでアドラに決め
ました。応援しています!
(ミャンマー地震被災者支援 TYさん)

ウクライナの置かれた現状は、太平洋
戦争時代の日本(国民の国籍や不安)
と類似しているところがあるのではな
いかと思っております。戦争は必ず
終結します。応援しています!
(ウクライナ人道支援 YUさん)

ADRA Japanは「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、キリスト教精神を基盤として、
人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行っています。

ホームページ

<https://www.adrajpn.org/>



発行人 青木 泰樹

発行 認定NPO法人 ADRA Japan(アドラ・ジャパン)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
TEL: 03-5410-0045 FAX: 03-5474-2042
E-mail: support_adra@adrajpn.org
Facebook: adrajapan X(Twitter): ADRA_Japan
Instagram: adra_japan LINE: <https://lin.ee/sbm2uFM>
YouTube: @ADRAJapan

団体概要

法人名 特定非営利活動法人 ADRA Japan
所在地 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
(JR原宿駅 徒歩5分、東京メトロ明治神宮前(原宿)駅 徒歩2分)
代表者 栗田 俊生(理事長)
事務局長 青木 泰樹(常務理事/事務局長)
創立年月日 1985年3月30日

デザイン: TIMA GEVOEL Co.Ltd.

